



公益財団法人SAJ

SAJ Farm 通信

vol.22

2012年 5月号

公益財団法人
School Aid Japan
〒144-0043
東京都大田区羽田 1-1-3
TEL: 03-5737-2773
FAX: 03-5737-2793
<http://www.schoolaidjapan.or.jp>
sajinfo@schoolaidjapan.or.jp

子供たちの笑顔のために

カンボジアでは暑い日が続いています。しかし5月に入ってから、夕方になると雨の降る日が多くなってきました。待ち遠しかった雨季もすぐそこまで来ています。雨の降る日は決まって午前中は猛烈に暑くなります。そして2時~3時頃になると急に冷たい風が吹きます。そんなときはさっきまで晴れていたはずの空に、黒い雨雲が迫ってきて大雨が降り、1~2時間の時もありますが、数時間振り続く時もあります。

今年は辰年です。カンボジアでは辰年は雨の多い年になると言い伝えられています。10年から12年の周期で大洪水になるとのことでした。

現地スタッフによると、今年は雨が降る前に吹く風が非常に強いということです。そのため農場の門前に建てられていたSAJ Farmの看板が根元から折れ曲がってしまったり、ヤシの木が倒れてしまいました。

4月5日に刈取りを行った水稻の収穫量をお伝えします。乾季の時期に14アールの水田で作付けをした水稻の収穫量は約78kgでした。雨季のときに作付けをした水稻は236kgでしたので、乾季は約3分の1の収穫量となってしまいました。

このような乾季と雨季での収穫量の差の原因はやはり水にあります。乾季は雨が降らないので、2~3日おきにガソリンエンジンを動力とするポンプで池の水をくみ上げますが、草丈や茎を大きくし、穂を充実させるための水としては不足だったようです。

収穫が終わった後私たちが行ったことは、鶏糞の購入でした。農場から車で約1時間半ほどのところにある養鶏場で鶏糞を購入しました。これから迎える雨季に備えて水田の肥料を準備するためです。本来ならば農場で育てているニワトリから糞をとりそれを農場に戻す、もしくは緑肥を育てそれを鋤き込むことで、土の中にある微生物を増やし、その力によって水田や畑を維持していくことが、私たちの目指す循環型有機農業です。しかしニワトリ飼育方法や緑肥の栽培がうまくいかないため、有機物を外部から取り入れることとなってしまっています。



稲刈りをする現地職員(チャンダー)作業は手作業で丁寧に行います。



SAJ Farm で育てているニワトリ



こんなかわいい雛がネズミに食べられてしまうんです



建て直しを行ったニワトリ小屋

購入した鶏糞はすぐさま水田に散布し、雨が降った直後を狙って水田や畑にトラクターですきこんでいます。雨でやわらかくなった土と鶏糞とを混ぜるためです。しかし未だ砂が多い私たちの圃場では、トラクターの回転刃もすぐに磨耗してしまいます。そのため先日も刃の交換をしました。

鶏糞購入の次に始めたのがニワトリ小屋の建て直しです。今までのニワトリ小屋ではどうしても外部からの天敵に襲われやすく、実際にネズミやヘビ、さらにはイタチのような小型の獣の侵入によって、せっかく孵った雛やタマゴまでもが食べられてしまいました。そのため対策としてトタンを土中深く埋め、穴を掘られないようにし、プラスチックのネットから金網のネットに変えるなどの処置をとりました。

水田や畑には昨年同様に緑肥としての陸稲の種まきも始めました。昨年はこの陸稲の栽培1年に1回だけでしたが、今年は2回、3回と鋤き込む回数を増やしていきます。

今年は不思議なことが1つ起こりました。それはカンボジアで栽培されているマンゴーの花の咲く時期が例年よりずっと早かったことです。それは私たちの圃場にあるマンゴーも同じことでした。通常は5月ころに収穫するのですが今年にはすでに収穫を始めることができ

るほどでした。そしてその花は見事にたくさんの実を实らせました。収穫したマンゴーは、孤児院へお届けしました。その量は合計で約250kg。数回に渡って孤児院へと運びました。実は、孤児院にもマンゴーの木はあるのですが、「孤児院で穫れるマンゴーよりずっとおいしい！だからまた持ってきてね。」と毎回のように子供たちから催促されたくらいです。おいしそうに食べる子供たちの笑顔とこの言葉はお金には替えられない私たちへの大きな報酬となりました。

編集後記

マンゴーを食べた子供たちからもらった一言は本当にうれしいものでした。このようなことが私たちの糧であり、ここで農業をする目的です。今年度は雨季に2回お米を作ります。今年はそのお米をおなかいっぱい食べてもらえるようにしたいと思います。

飯島